

環境に関する県民・事業者意識調査結果報告書

宮城県 県民アンケート 調査結果報告書

1. 調査概要

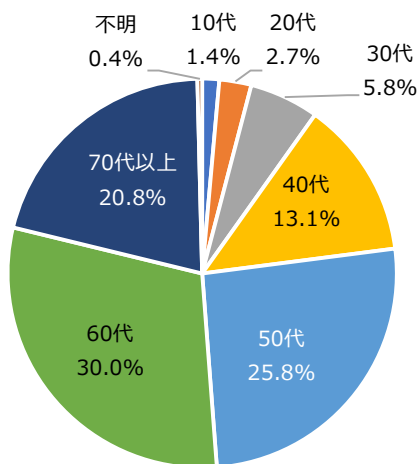
項目	内容
調査名	環境に関する県民意識調査
対象	宮城県民
調査方法	みやぎ県民公式アプリ「ポケットサイン」のアンケート機能を活用したオンライン回答
集計対象回答数	18,724 件
調査期間	2026 年 5 月 26 日 (火)～2026 年 6 月 7 日 (日)

2. 回答者属性

2-1 年代

結果概要

回答者は 50 代・60 代が多く、中高年層の回答が中心となっています。



年代	回答数	構成比
10 代	262	1.4%
20 代	499	2.7%
30 代	1,084	5.8%
40 代	2,455	13.1%
50 代	4,838	25.8%
60 代	5,615	30.0%
70 代以上	3,898	20.8%
不明	73	0.4%
合計	18,724	100.0%

2—2 地域区分

結果概要

仙台地域の回答が全体の大きな割合を占めています。

地域区分	回答数	構成比
仙台地域	14,429	77.1%
大崎地域	1,594	8.5%
仙南地域	827	4.4%
石巻地域	777	4.1%
気仙沼・本吉地域	554	3.0%
登米地域	334	1.8%
栗原地域	209	1.1%
合計	18,724	100.0%

3. 調査結果

※表中では、詳細確認用として10代～100代で区分していますが、グラフ内では「70代以上」として取りまとめています。

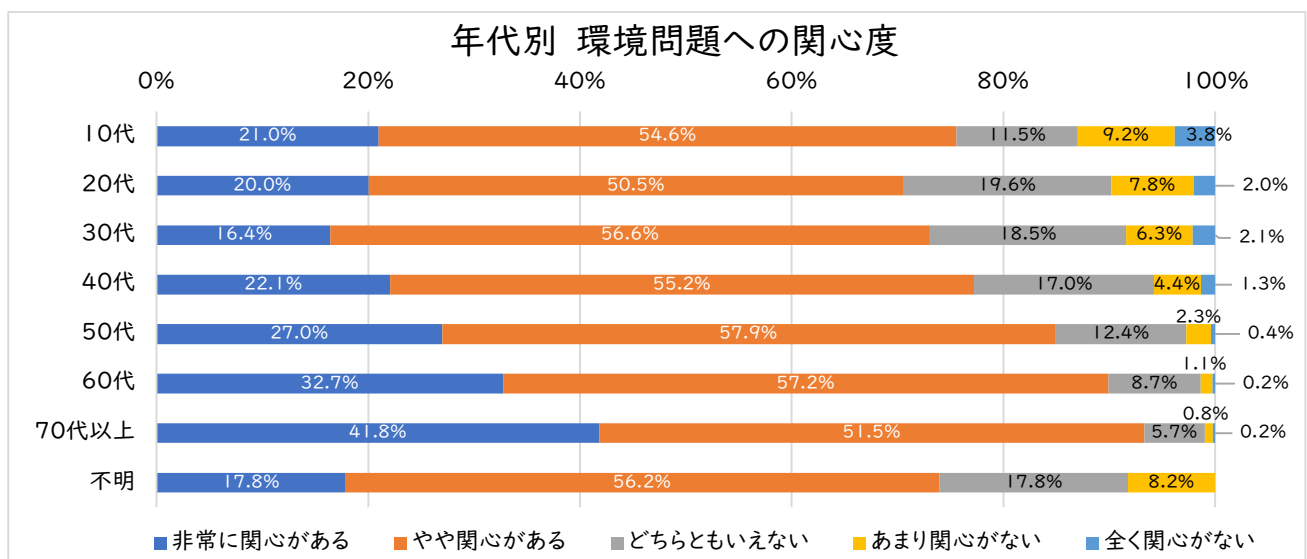
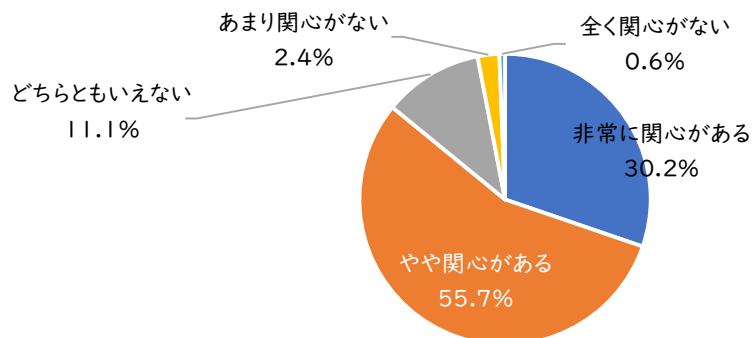
問1 環境問題への関心度

あなたは環境問題にどのくらい関心がありますか。(n=18,724)

結果概要

環境問題に関心がある人は85.9%であった。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
非常に関心がある	55	100	178	542	1,306	1,838	1,421	201	9	0	13	5,663
やや関心がある	143	252	614	1,354	2,799	3,212	1,796	201	9	0	41	10,421
どちらともいえない	30	98	201	417	602	489	195	23	5	0	13	2,073
あまり関心がない	24	39	68	109	112	63	25	4	1	0	6	451
全く関心がない	10	10	23	33	19	13	7	1	0	0	0	116
年代合計	262	499	1,084	2,455	4,838	5,615	3,444	430	24	0	73	18,724



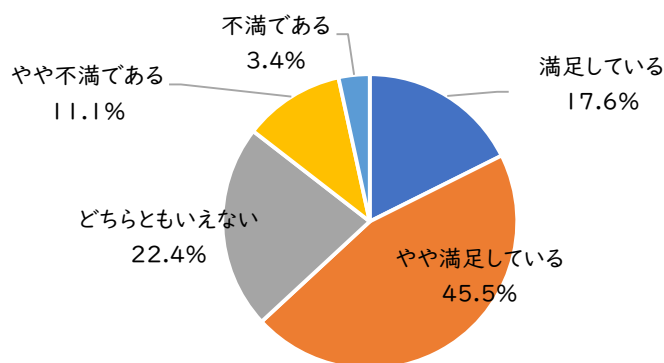
問 2 地域環境への満足度

今住んでいる地域の環境（緑の豊かさや空気、水のきれいさなどの自然環境のほか、騒音やごみの問題など）について、どの程度満足していますか？（n=18,724）

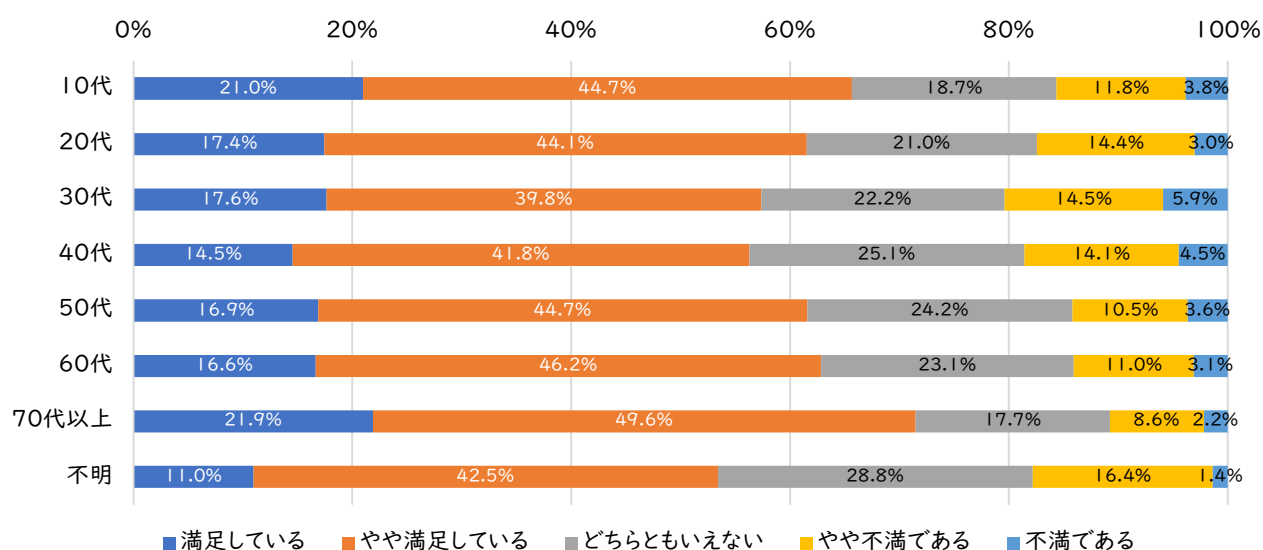
結果概要

地域の環境に満足している人は 63.1%で、多くが現在の環境をおおむね良好と感じている。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
満足している	55	87	191	357	817	934	735	112	6	0	8	3,302
やや満足している	117	220	431	1,025	2,162	2,596	1,718	207	9	0	31	8,516
どちらともいえない	49	105	241	617	1,173	1,295	614	70	7	0	21	4,192
やや不満である	31	72	157	346	510	615	302	32	1	0	12	2,078
不満である	10	15	64	110	176	175	75	9	1	0	1	636
年代合計	262	499	1,084	2,455	4,838	5,615	3,444	430	24	0	73	18,724



年代別 地域環境への満足度



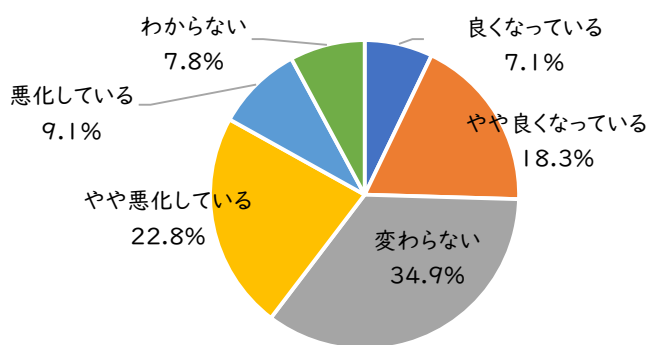
問3 10年前と比べた環境変化

10年前と比べて宮城県的环境（緑の豊かさや空気、水のきれいさなどの自然環境のほか、騒音やごみの問題など）がどう変わったと感じますか。あてはまるものを一つ選んでください。（n=18,724）

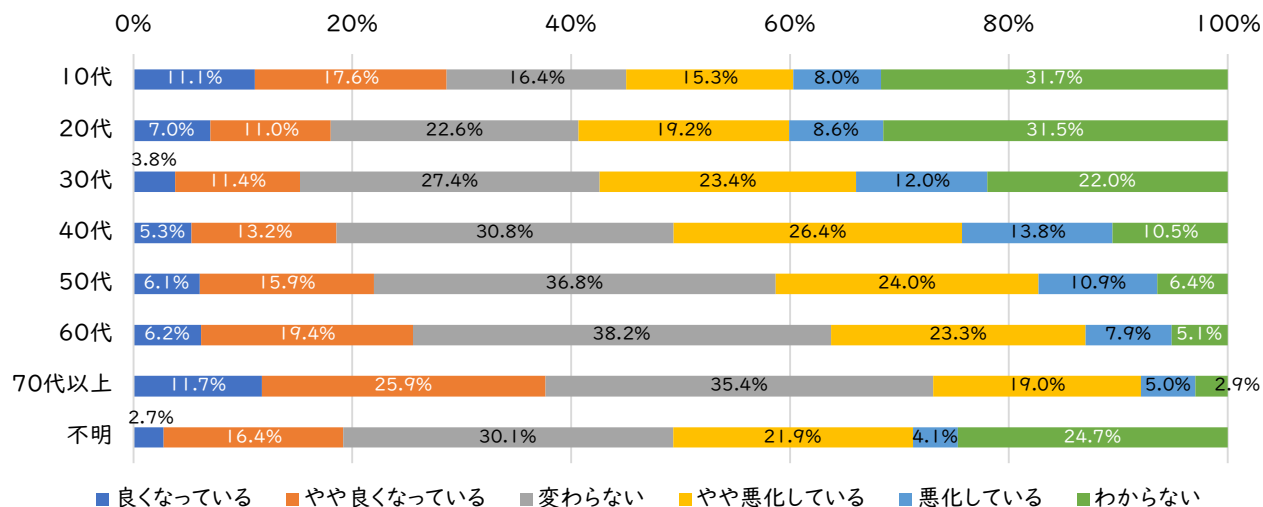
結果概要

「変わらない」が最も多い一方、悪化を感じる人も一定数みられる。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
良くなっている	29	35	41	130	293	347	387	68	2	0	2	1,334
やや良くなっている	46	55	124	325	769	1,088	880	127	4	0	12	3,430
変わらない	43	113	297	757	1,778	2,144	1,240	133	8	0	22	6,535
やや悪化している	40	96	254	647	1,162	1,307	661	72	7	0	16	4,262
悪化している	21	43	130	338	525	442	174	18	3	0	3	1,697
わからない	83	157	238	258	311	287	102	12	0	0	18	1,466
年代合計	262	499	1,084	2,455	4,838	5,615	3,444	430	24	0	73	18,724



年代別 10年前と比べた環境変化



問 4 今後特に重要だと思う環境分野

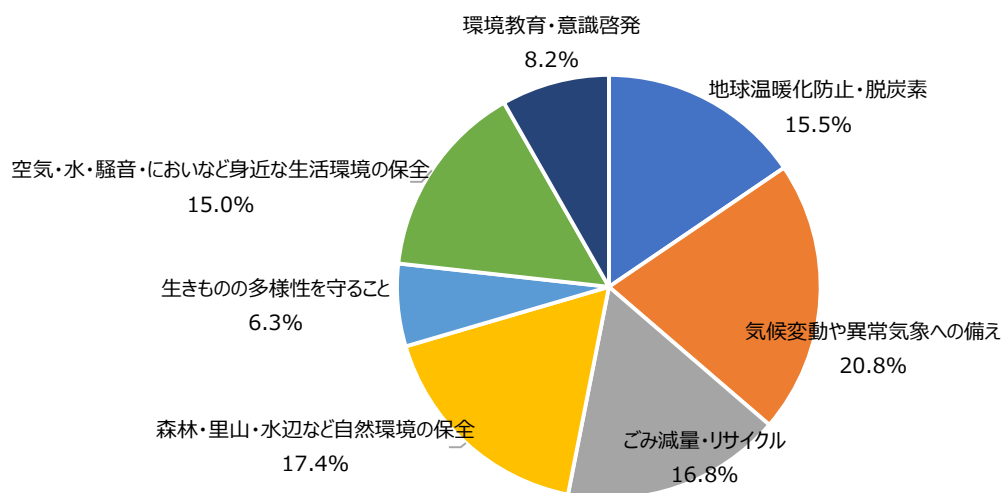
宮城県の環境分野で、これから特に力を入れてほしいものは何ですか。今後特に重要だと思う環境分野を3つまで選んでください。(n=18,724)

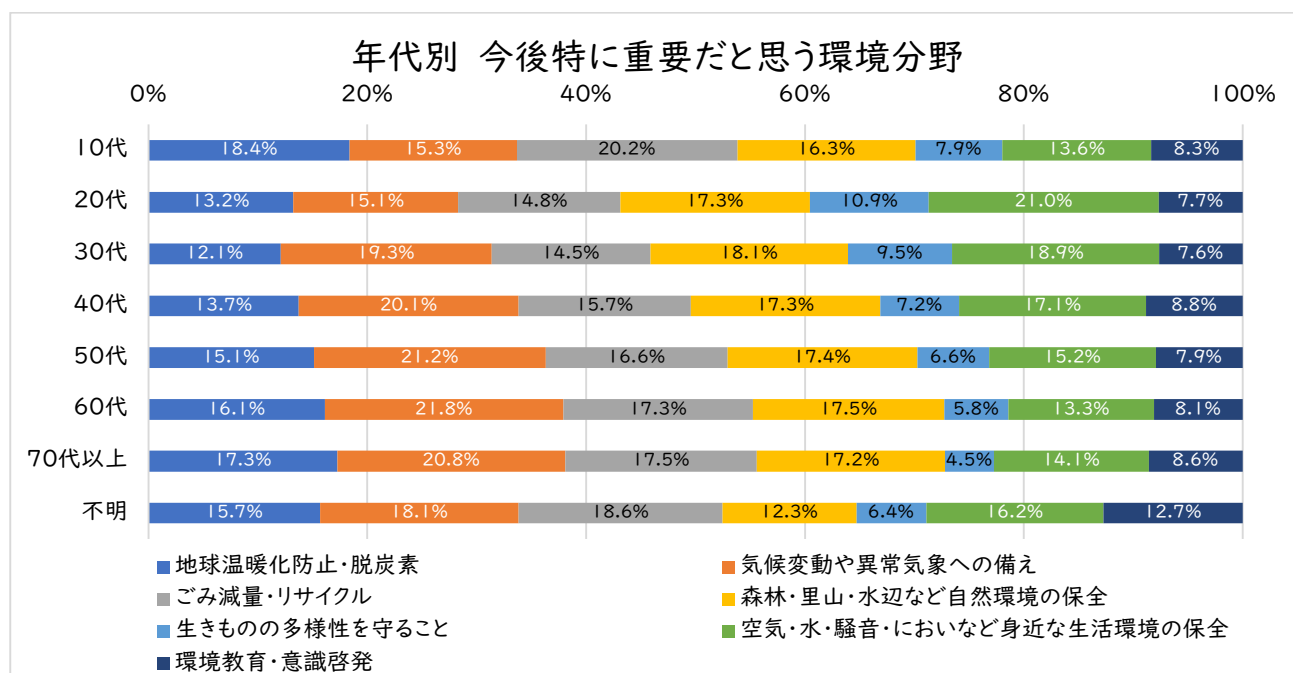
結果概要

「気候変動や異常気象への備え」が最も高い。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
地球温暖化防止・脱炭素	132	171	367	933	2,023	2,526	1,638	219	10	0	32	8,051 (43.0%)
気候変動や異常気象への備え	110	195	585	1,365	2,839	3,417	2,007	238	8	0	37	10,801 (57.7%)
ごみ減量・リサイクル	145	192	441	1,068	2,223	2,718	1,656	222	13	0	38	8,716 (46.5%)
森林・里山・水辺など自然環境の保全	117	224	548	1,176	2,325	2,743	1,652	200	6	0	25	9,016 (48.1%)
生きものの多様性を守ること	57	141	289	490	878	914	435	49	2	0	13	3,268 (17.5%)
空気・水・騒音・においなど身近な生活環境の保全	98	272	574	1,160	2,040	2,089	1,352	168	9	0	33	7,795 (41.6%)
環境教育・意識啓発	60	99	232	600	1,061	1,270	841	78	8	0	26	4,275 (22.8%)
年代合計	719	1,294	3,036	6,792	13,389	15,677	9,581	1,174	56	0	204	51,922

※()内の値は、回答者数(18,724人)に対し、各年代合計が占める割合



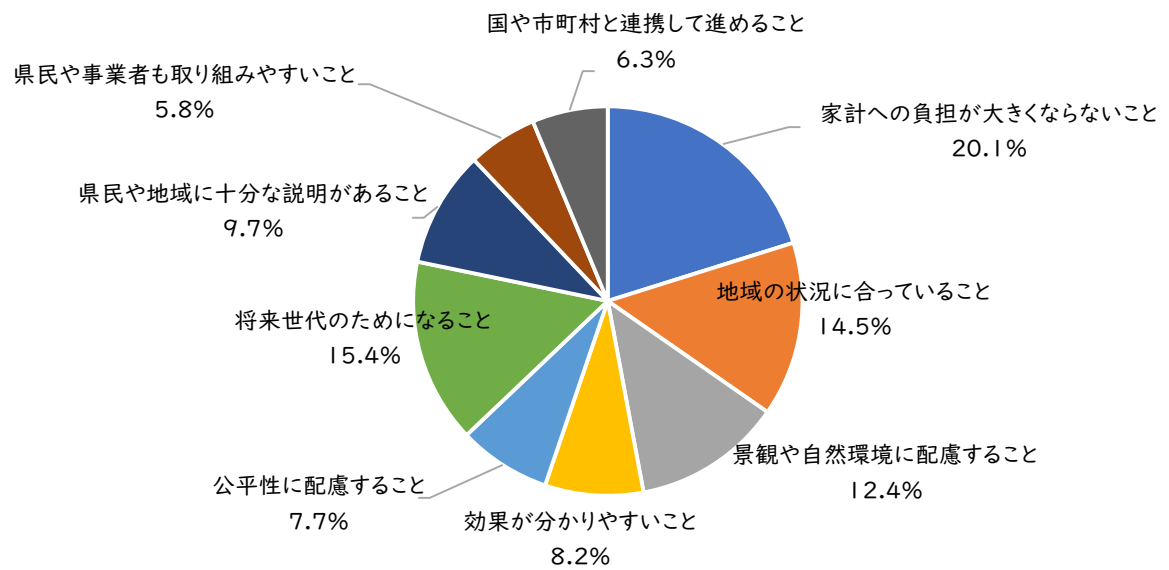


問 5 取組で大切にしたいこと

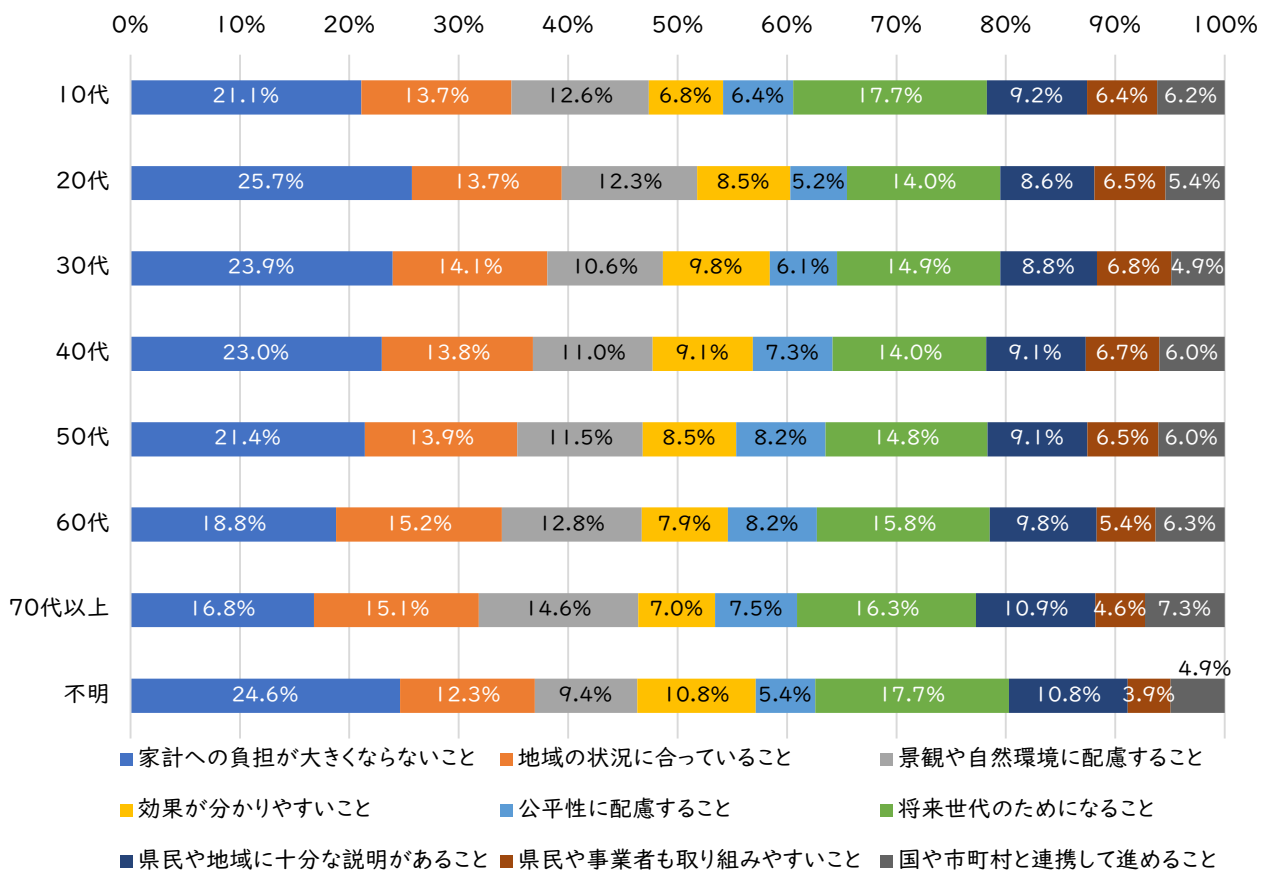
環境についての取組を進めるとき、特に大切にしたいことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。(n=18,724)

結果概要	「家計への負担が大きくなること」が最も高い。
------	------------------------

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
家計への負担が大きくなること	168	356	773	1,720	3,116	3,157	1,675	229	19	0	50	11,263
地域の状況に合っていること	109	190	456	1,034	2,029	2,550	1,528	185	13	0	25	8,119
景観や自然環境に配慮すること	100	171	341	822	1,667	2,147	1,474	189	5	0	19	6,935
効果が分かりやすいこと	54	118	316	685	1,243	1,322	725	79	2	0	22	4,566
公平性に配慮すること	51	72	198	546	1,186	1,370	756	97	4	0	11	4,291
将来世代のためになること	141	194	482	1,051	2,157	2,653	1,685	181	6	0	36	8,586
県民や地域に十分な説明があること	73	119	285	680	1,329	1,644	1,118	128	6	0	22	5,404
県民や事業者も取り組みやすいこと	51	90	220	505	945	902	469	51	2	0	8	3,243
国や市町村と連携して進めること	49	75	157	447	879	1,064	726	102	3	0	10	3,512
合計	796	1,385	3,228	7,490	14,551	16,809	10,156	1,241	60	0	203	55,919



年代別 取組で大切にしてほしいこと



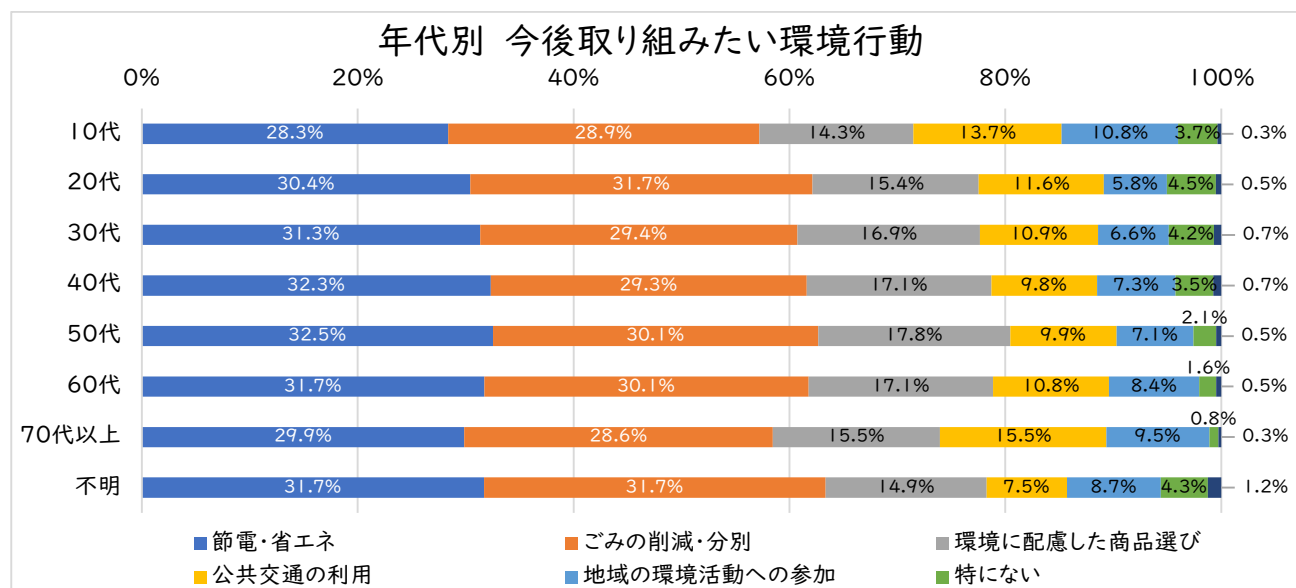
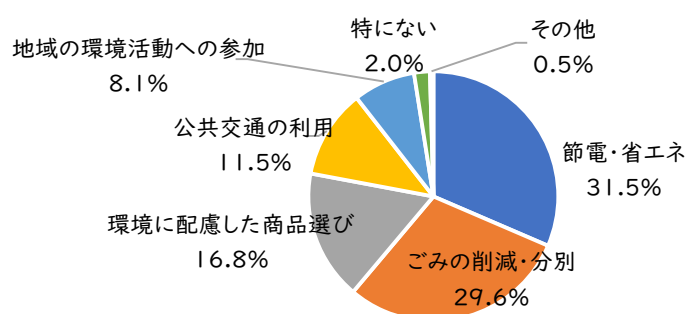
問 6 今後取り組みたい環境行動

環境のために、あなた自身が今後取り組みたいことはありますか？（複数選択可）（n=18,724）

結果概要

「節電・省エネ」、「ごみ削減・分別」など、日常生活で取り組みやすい行動への意向が高い。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
節電・省エネ	163	302	697	1,675	3,484	4,139	2,498	294	13	0	51	13,316
ごみの削減・分別	166	315	654	1,519	3,226	3,922	2,356	307	19	0	51	12,535
環境に配慮した商品選び	82	153	377	887	1,906	2,231	1,314	136	4	0	24	7,114
公共交通の利用	79	115	243	508	1,059	1,403	1,251	196	4	0	12	4,870
地域の環境活動への参加	62	58	146	378	761	1,091	808	85	2	0	14	3,405
特にない	21	45	93	180	224	203	63	13	2	0	7	851
その他	2	5	15	38	50	62	20	4	0	0	2	198
年代合計	575	993	2,225	5,185	10,710	13,051	8,310	1,035	44	0	161	42,289



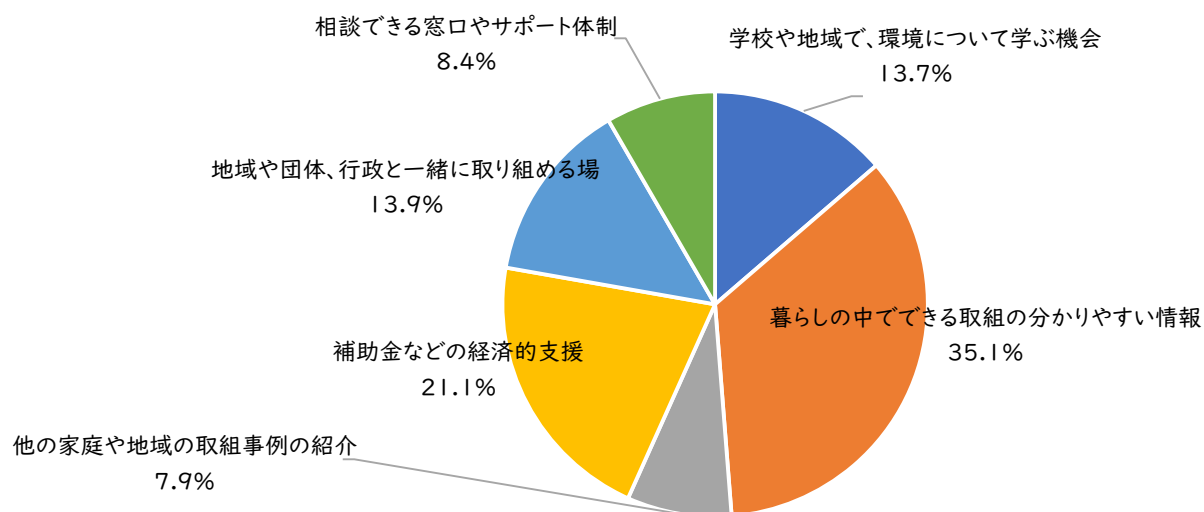
問 7 行動変容に必要な後押し

あなた自身が環境にやさしい行動をしやすくするには、どんな後押しがあるとよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。(n=18,724)

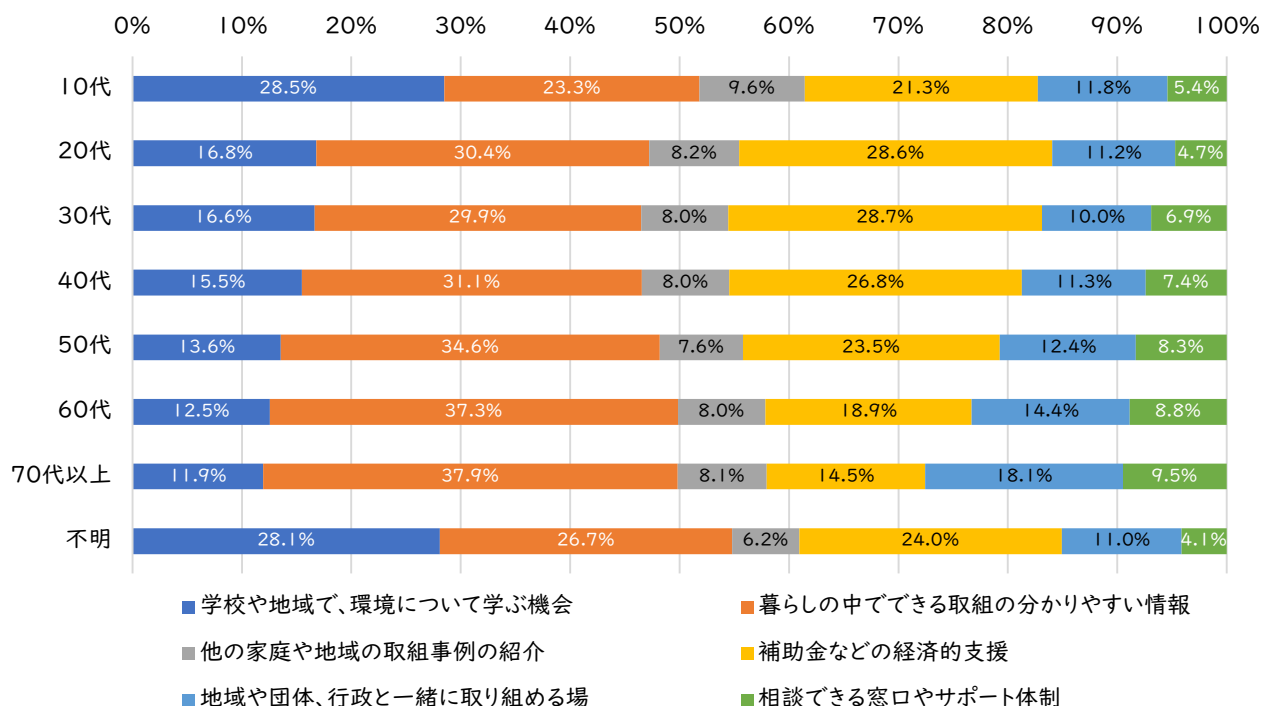
結果概要

「暮らしの中でできる取組の分かりやすい情報」へのニーズが最も高い。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
学校や地域で、環境について学ぶ機会	142	157	352	747	1,272	1,377	823	87	3	0	41	5,001
暮らしの中でできる取組の分かりやすい情報	116	284	632	1,502	3,249	4,095	2,559	321	16	0	39	12,813
他の家庭や地域の取組事例の紹介	48	77	169	387	714	877	548	72	3	0	9	2,904
補助金などの経済的支援	106	267	607	1,293	2,204	2,071	993	107	8	0	35	7,691
地域や団体、行政と一緒に取り組める場	59	105	211	546	1,166	1,585	1,222	156	5	0	16	5,071
相談できる窓口やサポート体制	27	44	146	358	779	971	629	88	6	0	6	3,054
年代合計	498	934	2,117	4,833	9,384	10,976	6,774	831	41	0	146	36,534



年代別 行動変容に必要な後押し



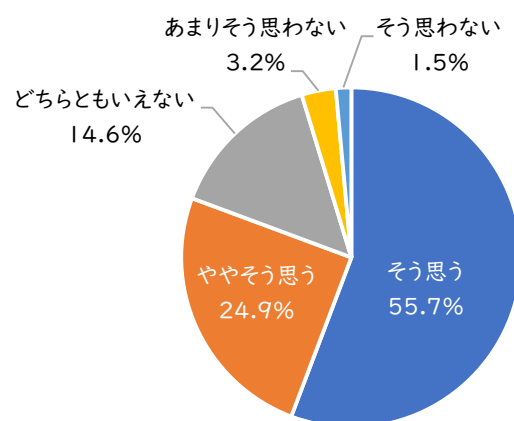
問 8 定住意向

これからも、今住んでいる地域に住み続けたいと思いますか。(n=18,724)

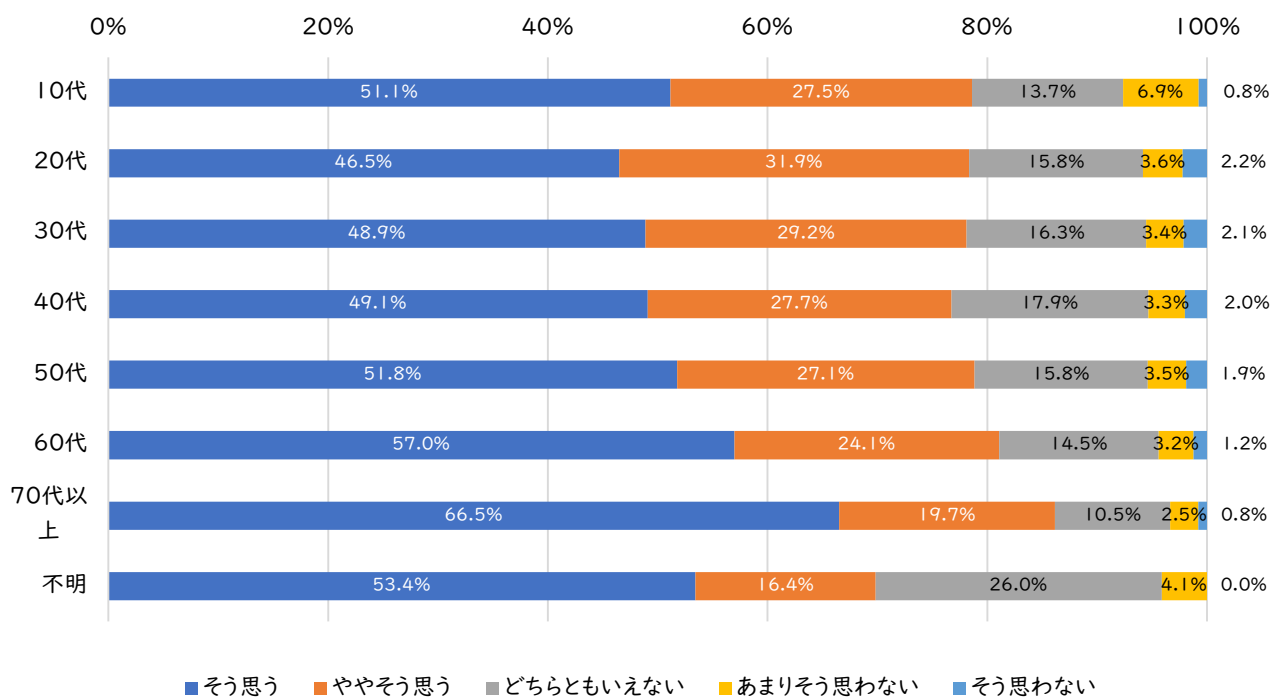
結果概要

現在の地域に住み続けたい人は 80.7%と高い。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計
そう思う	134	232	530	1,205	2,505	3,200	2,275	302	16	0	39	10,438
ややそう思う	72	159	317	679	1,309	1,353	680	82	4	0	12	4,667
どちらともいえない	36	79	177	440	764	816	370	35	4	0	19	2,740
あまりそう思わない	18	18	37	82	168	178	93	6	0	0	3	603
そう思わない	2	11	23	49	92	68	26	5	0	0	0	276
年代合計	262	499	1,084	2,455	4,838	5,615	3,444	430	24	0	73	18,724



年代別 定住意向



問 9 2050 年に望む環境の姿

2050 年の宮城県の環境が、どうなっていればいいと思いますか。

あてはまるものを 3 つまで選んでください。(n=18,724)

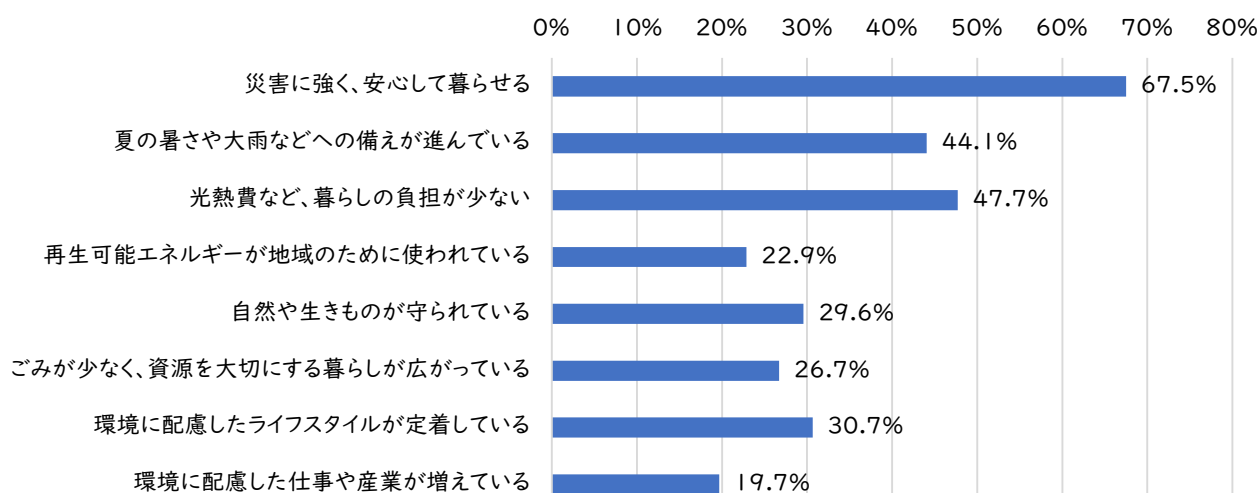
結果概要

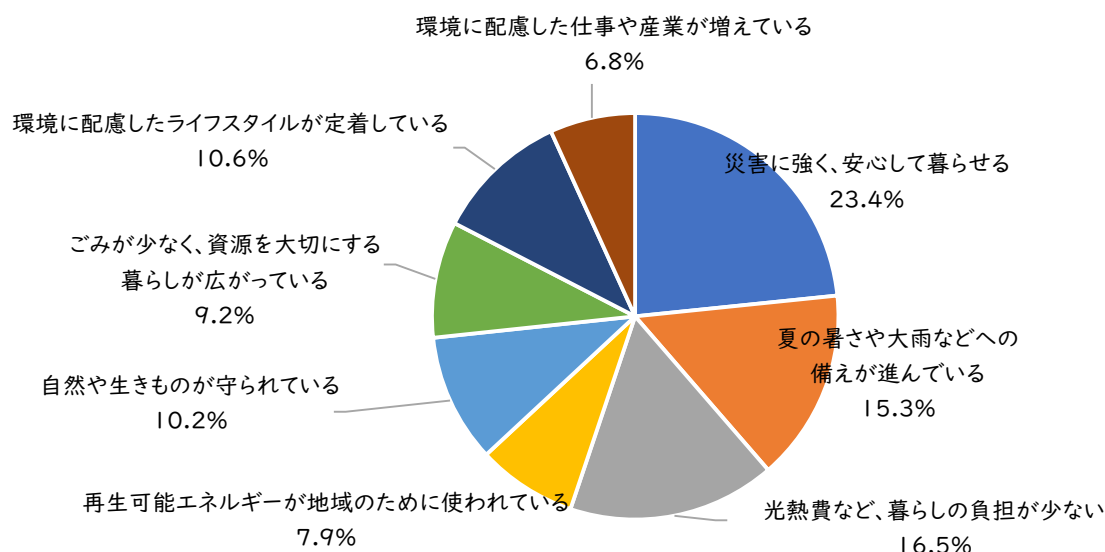
「災害に強く、安心して暮らせる」が 67.5%と最も高く、安全・安心への期待が大きい。

選択肢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代	不明	各年代合計※
災害に強く、安心して暮らせる	172	326	709	1,543	3,128	3,878	2,511	316	16	0	40	12,639 (67.5%)
夏の暑さや大雨などへの備えが進んでいる	130	242	576	1,265	2,306	2,384	1,186	119	8	0	39	8,255 (44.1%)
光熱費など、暮らしの負担が少ない	136	271	609	1,381	2,488	2,481	1,365	160	10	0	39	8,940 (47.7%)
再生可能エネルギーが地域のために使われている	60	72	213	519	1,054	1,289	941	116	9	0	10	4,283 (22.9%)
自然や生きものが守られている	88	170	359	796	1,446	1,629	917	113	5	0	17	5,540 (29.6%)
ごみが少なく、資源を大切に する暮らしが広がっている	78	117	206	528	1,182	1,562	1,136	173	6	0	14	5,002 (26.7%)
環境に配慮したライフスタイル が定着している	69	112	263	652	1,477	1,845	1,159	139	7	0	18	5,741 (30.7%)
環境に配慮した仕事や産業 が増えている	51	74	201	547	1,036	1,070	611	72	1	0	21	3,684 (19.7%)
年代合計	784	1,384	3,136	7,231	14,117	16,138	9,826	1,208	62	0	198	54,084

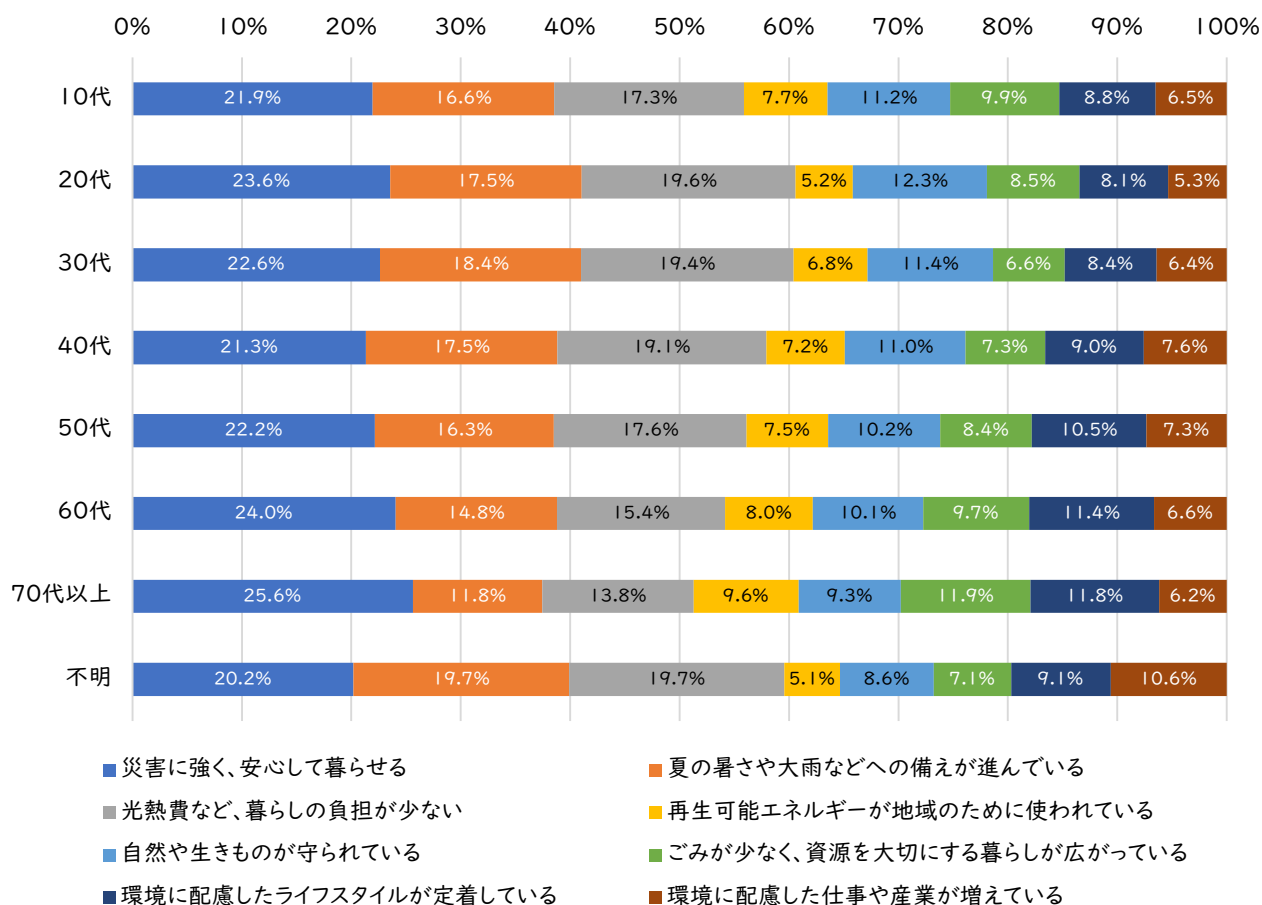
※()内の値は、回答者数(18,724 人)に対し、各年代合計が占める割合

2050年に望む環境の姿





年代別 2050年に望む環境の姿



問 10 将来の環境や地域に望むこと

将来の環境や地域に望むことについて、考えを自由に書いてください。(自由記述) (n=5,767)

結果概要

「自然環境」「住みやすい環境」「緑豊か」「再生可能エネルギー」「公共交通機関」などの語が多くみられ、身近な自然の保全や暮らしやすさ、再生可能エネルギーへの関心がうかがえる。

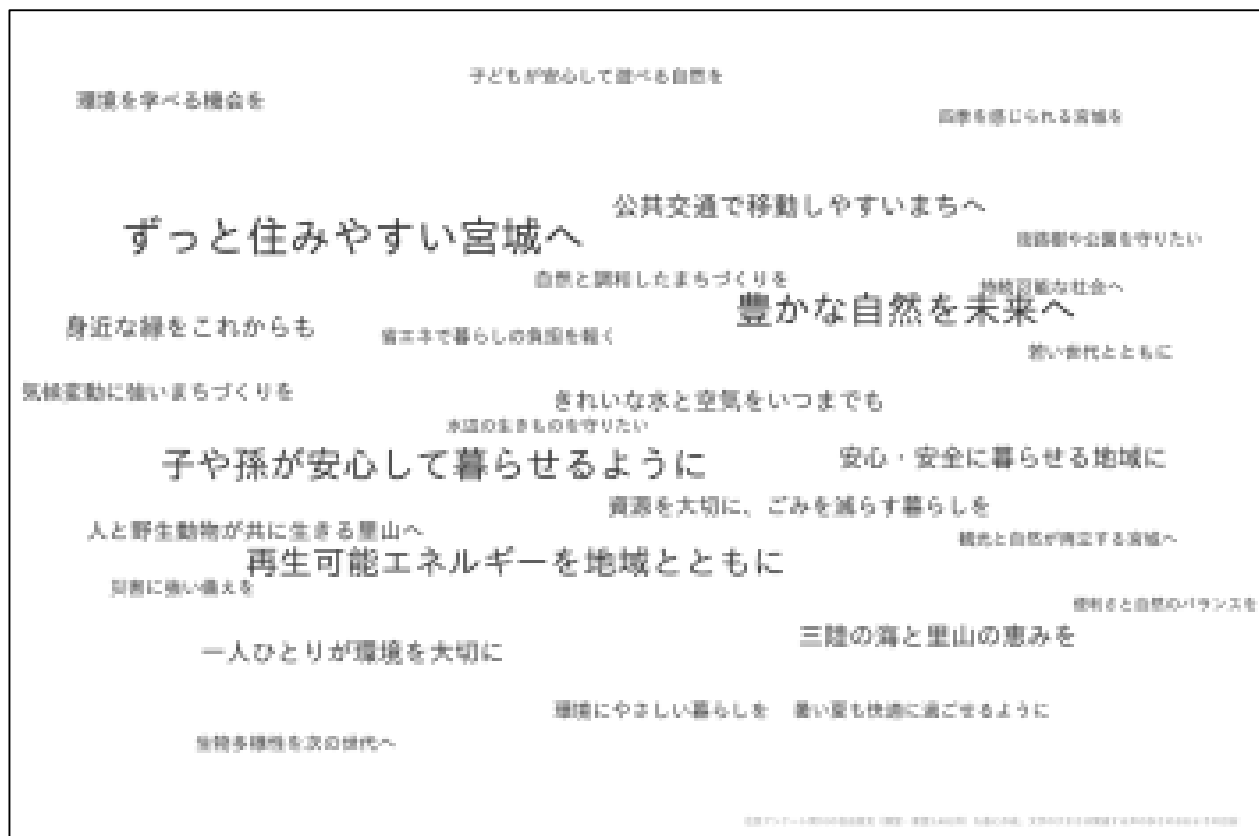


図 県民自由意見のワードクラウドによる表現

※本図は、上記の頻出語を土台に、県民の前向きな声を将来像の言葉へ言い換えて構成した。

※不満・困りごととして書かれた声も、前向きな表現へ言い換えて用いている(例:再エネへの懸念→「地域とともに」)。賛否が分かれる論点は一方向に偏らない表現としている。

※県民は現状におおむね満足しており(問 2:環境への満足 63.1%、問 8:住み続けたい 80.7%)、本図は「守り・育て・継ぐ」前向きな声を中心に表現している。

■ 自由記述の分野別の傾向

自由記述のうち実質的な記述があった 5,511 件について、内容を計画の 5 分野（脱炭素・気候変動／自然共生・生物多様性／循環経済／生活環境／環境教育）と、これらに直接該当しない「横断・基盤」に分類し、あわせて願い（願望）・要望・不満・その他に区分した。

意見の区分

区分	件数	割合
願望（前向きな願い）	1,301	23.6%
要望（行政等への要望）	2,181	39.6%
不満・困りごと	346	6.3%
その他	1,683	30.5%
合計	5,511	100.0%

分野別の意見件数と主な内容

分野	件数	割合	主な意見の内容
脱炭素・気候変動	1,157	21.0%	公共交通の充実、温暖化対策、再エネの立地への配慮
自然共生・生物多様性	1,058	19.2%	身近な緑・里山の保全、鳥獣害への対応
循環経済	704	12.8%	ごみの分別・リサイクル、不適正排出への対応
生活環境	168	3.0%	騒音・水道など身近な生活環境（不満の割合が高い）
環境教育	982	17.8%	意識の向上・行動・協働・参加、情報発信への期待
横断・基盤（防災・安心・地域・負担 等）	1,688	30.6%	災害に強い環境、安心して暮らせること、高齢化・負担への配慮

※1 件が複数分野に該当する場合があるため合計は延べ件数。いずれにも該当しない回答が 1,454 件（26.4%）。

主な傾向

- 最も多いのは「横断・基盤」（30.6%）で、防災・安心・地域・暮らしの負担など 5 分野の枠に収まらない関心を中心。問 9 で「災害に強く、安心して暮らせる」が最も多かったことと符合する。
- 5 分野では脱炭素・気候変動、自然共生・生物多様性が多く、生活環境が最少（不満の割合は高い）。
- 区分では「要望」（39.6%）が最多。「願望」（23.6%）と合わせ前向き・建設的な声が 6 割強で、「不満」は 6.3%にとどまる。

※分類はキーワードに基づく一次集計であり、代表的な意見は原文を要約して記載

分野別の代表的な意見

各分野から、回答者の年代構成を踏まえて代表的な意見を 5 件ずつ抜粋した。

分野	年代	地域	意見（抜粋）
脱炭素・気候変動	50 代	仙台	自転車を使った環境や観光資源の創出
	60 代	仙南	メガソーラー建設に反対です。景観の悪化、環境破壊を推進して得られる効果があまりにも低いです。（一部略）

	60代	仙台	地下鉄が使いにくい。仙台駅を経由しないと東西南北の端に行くことができない。環状につなが公共交通があるといい。そうすれば車利用が減るのでは
	40代	仙台	空き地にソーラーパネルだらけで自然がなくなってる感じがするので、植林をしてほしいですね
	50代	石巻	温暖化や熊による人的被害は自然環境破壊による影響が大きいと考えます。利便性よりも山や田畑を増やしたいです
自然共生・生物多様性	40代	仙台	将来の環境のためにも、熊が市街地まで来ないように対策をしてほしいですね
	50代	仙台	自然環境に負担をかけない社会環境の実現
	60代	仙台	熊が出てくることを考えるとこれまでとは違うけれど、環境の大切さは変わらないです
	60代	大崎	緑が豊かで癒される、家の内外に限らず健康的に生活できる、そんな将来であってほしいです
	60代	仙台	森林の乱開発は、もっと行政が規制すべきである
循環経済	50代	仙台	ゴミの分別が当たり前になったように、当たり前を増やしていくこと（一部略）
	50代	大崎	自然をのこしつつ、ゴミの分別をしてリサイクルによって循環型の生活が、将来の子どもたちのためになるのかなと思いました
	60代	仙台	ごみのポイ捨てや分別など、小さい頃からの教育、啓発をお願いします
	70代	仙台	油のリサイクルを推進してください。遅れていると思っています
	70代	仙台	最近、道路沿いや川沿いにゴミを捨てられていることが多く悲しくなります
生活環境	40代	仙台	騒音改造車、トラック、暴走バイク等々、環境に優しいエンジン音のしない車両が増え、夜から朝方までゆっくり寝られる環境を望む
	50代	仙台	猛暑や大雨、地震に備えた施設や学ぶ機会を増やして欲しい。騒音問題への取り組み、高齢者や体の不自由な人が安心して暮らせる環境を望みます
	60代	仙台	近隣で回収業の方がいますが、集めた物の始末、重機の作動する時間や騒音がひどく困っています。指導も考えていただきたい
	60代	仙台	行政において、地域住民が意識して地域環境を守るしくみづくりをリードしてもらいたい
	60代	気仙沼・本吉	河川の改修をして、鯉などが泳いでいる水質にして、楽しめる河川にしてください
環境教育	50代	仙台	環境問題は、まず一人一人が意識を持つこと。そして一人から家庭、地域へと広がるようになれば良いですね
	50代	大崎	世代交代で環境なども大分変わると思うので、災害の時など近所で協力し合い助け合って進んで行く世の中であって欲しい
	50代	仙台	学校での意識づくりが楽しいで終わっていると感じる。もっと地域に根ざした取り組み。生徒の居住行政区に入り、地域の一員として教育していけばいいかも
	60代	仙台	地域住民の繋がり、どんな人が住んでいるのかを知ること。その上で一人一人を尊重し自立して暮らせる環境を整えること

	60 代	大崎	殺伐とした地域にならないように、地域のコミュニティが機能できるためにどうしたらよいか考える必要があると思う
横断・基盤	20 代	仙台	国の政策に寄り添い過ぎない、県民重視でお願いしたい
	30 代	仙台	農家、野生動物の被害が大変多くなっております。安心できる暮らしがしたいです（一部略）
	30 代	仙南	生活環境が今以上に良くなり、身体にやさしく暮らしやすいものになって欲しい
	50 代	仙台	空き家対策、安心安全な生活環境の維持、住民が気軽に集える公共の施設（特に夏・冬に集える屋内施設）
	60 代	登米	高齢者だけの生活が多くなるなか、足となる公共交通不足の解消と、増え続ける空き家の整備を、役所が先頭となり対策して欲しい

※代表例は、原文の趣旨を損なわない範囲で、誤字の修正・表記の統一・記述の一部省略を行っています。また、個人・法人が特定される表現や、掲載に適さない表現を含む部分は省略しています（該当箇所は「（一部略）」と記載）。

※抜粋にあたっては、自由記述に回答した 5,511 件の年代構成に沿って各分野の件数を配分したうえで、内容が分野を代表するものを選定しています。複数の分野にまたがる意見は、主たる分野に整理して掲載しています。

宮城県 事業者アンケート 調査結果報告書

1. 調査概要

項目	内容
調査名	環境に関する事業者意識調査
対象	宮城県内事業者
調査方法	オンライン回答
集計対象回答数	292 件
調査期間	2026 年 6 月 1 日(月)~2026 年 6 月 14 日(日)

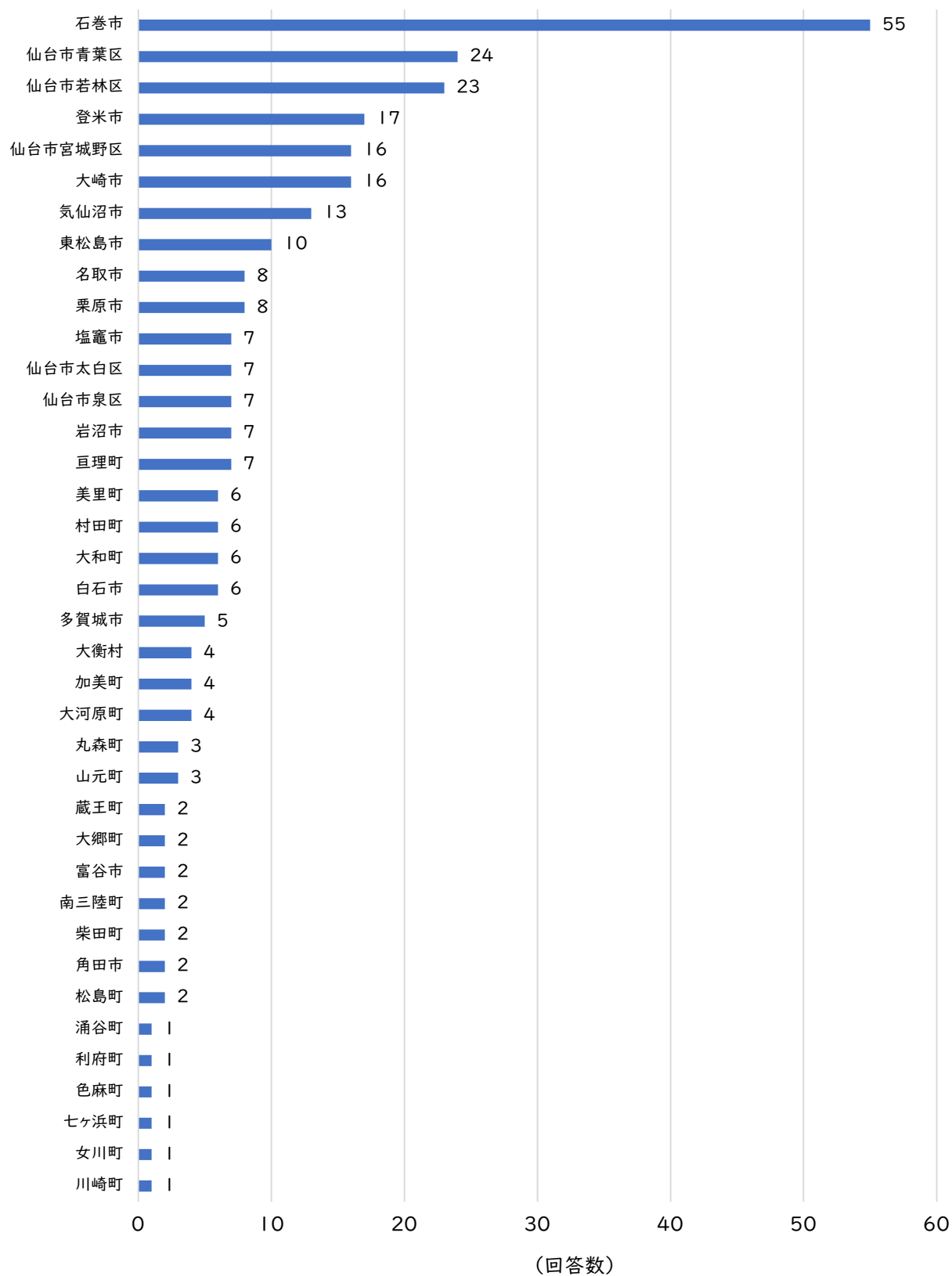
2. 回答事業者属性

問 1 所在地

結果概要	回答事業所の所在地は石巻市が最も多く、次いで仙台市青葉区、仙台市若林区が多い。
------	---

所在地	回答数	構成比	所在地	回答数	構成比
石巻市	55	18.8%	多賀城市	5	1.7%
仙台市青葉区	24	8.2%	大衡村	4	1.4%
仙台市若林区	23	7.9%	加美町	4	1.4%
登米市	17	5.8%	大河原町	4	1.4%
仙台市宮城野区	16	5.5%	丸森町	3	1.0%
大崎市	16	5.5%	山元町	3	1.0%
気仙沼市	13	4.5%	蔵王町	2	0.7%
東松島市	10	3.4%	大郷町	2	0.7%
名取市	8	2.7%	富谷市	2	0.7%
栗原市	8	2.7%	南三陸町	2	0.7%
塩竈市	7	2.4%	柴田町	2	0.7%
仙台市太白区	7	2.4%	角田市	2	0.7%
仙台市泉区	7	2.4%	松島町	2	0.7%
岩沼市	7	2.4%	涌谷町	1	0.3%
亘理町	7	2.4%	利府町	1	0.3%
美里町	6	2.1%	色麻町	1	0.3%
村田町	6	2.1%	七ヶ浜町	1	0.3%
大和町	6	2.1%	女川町	1	0.3%
白石市	6	2.1%	川崎町	1	0.3%

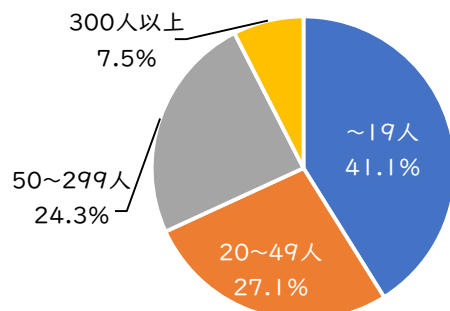
所在地別 回答数



問 2 従業員数

結果概要

従業員数は「19 人以下」が最も多くなっている。



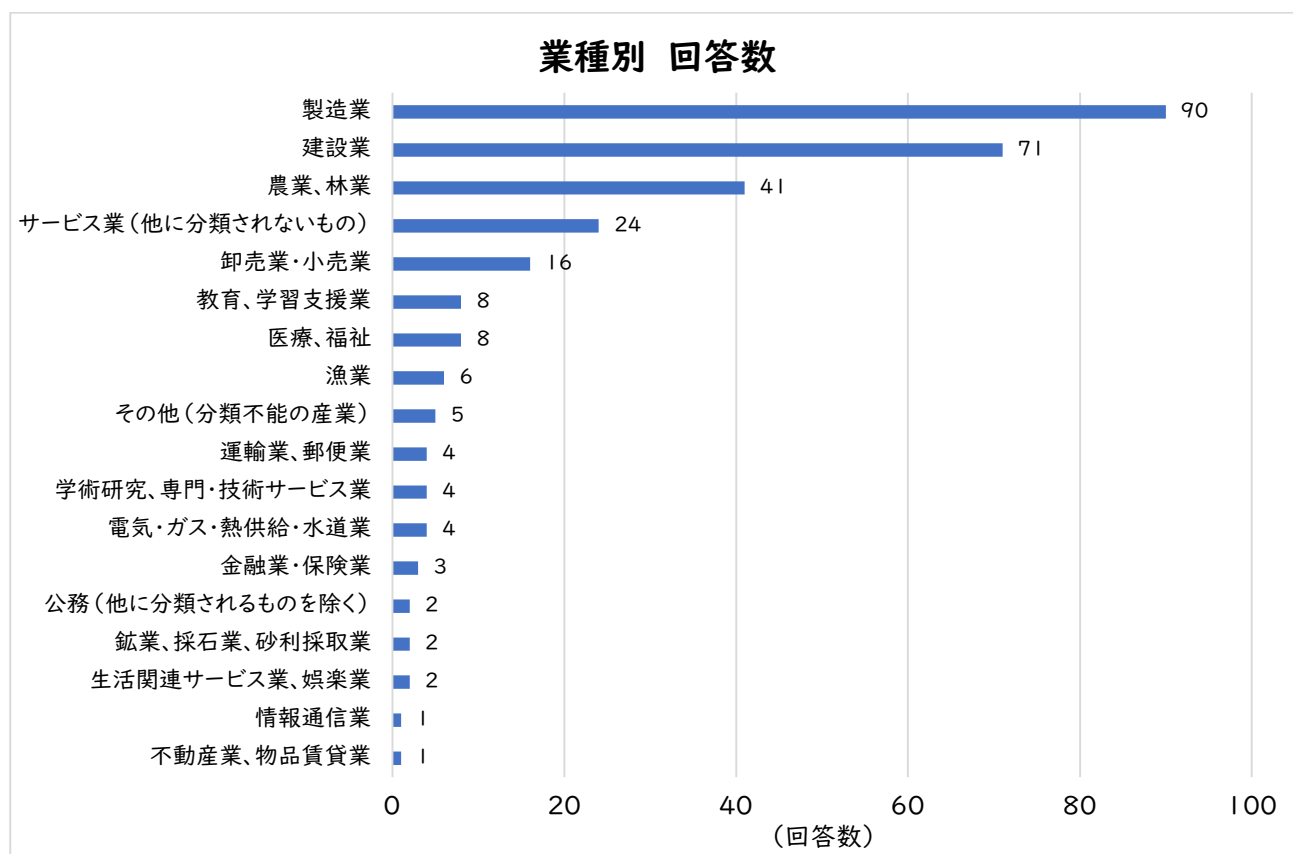
従業員数	回答数	構成比
~19人	120	41.1%
20~49人	79	27.1%
50~299人	71	24.3%
300人以上	22	7.5%
合計	292	100.0%

問 3 業種

結果概要

業種は製造業が最も多く、次いで建設業、農業・林業が多い。

業種	回答数	構成比
製造業	90	30.8%
建設業	71	24.3%
農業、林業	41	14.0%
サービス業（他に分類されないもの）	24	8.2%
卸売業・小売業	16	5.5%
医療、福祉	8	2.7%
教育、学習支援業	8	2.7%
漁業	6	2.1%
その他（分類不能の産業）	5	1.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	4	1.4%
学術研究、専門・技術サービス業	4	1.4%
運輸業、郵便業	4	1.4%
金融業・保険業	3	1.0%
生活関連サービス業、娯楽業	2	0.7%
鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.7%
公務（他に分類されるものを除く）	2	0.7%
不動産業、物品賃貸業	1	0.3%
情報通信業	1	0.3%
合計	292	100.0%



3. 調査結果

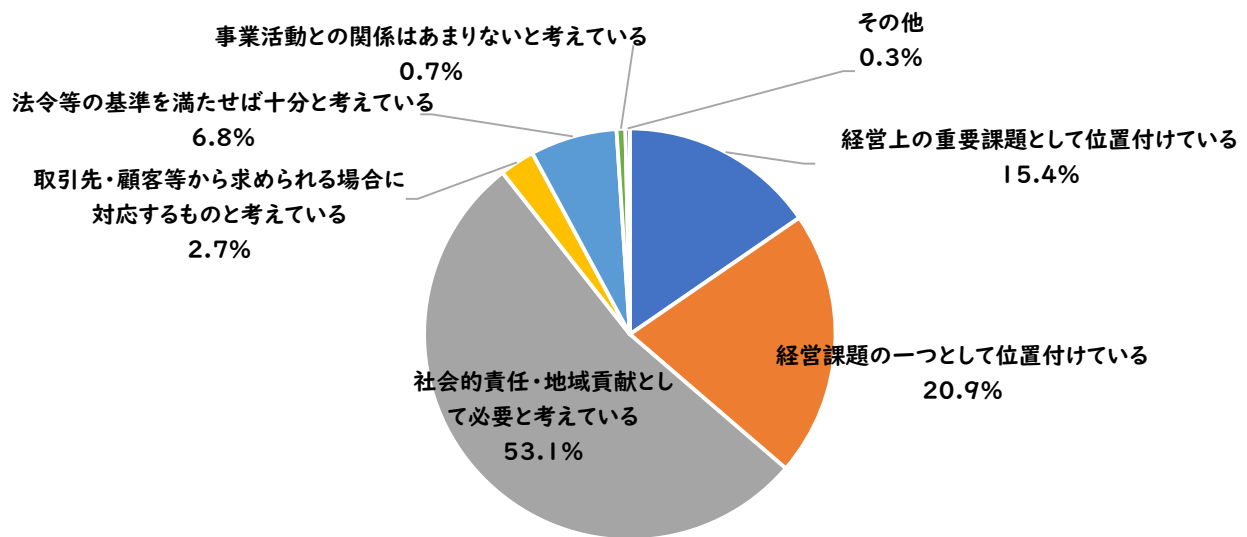
問 4 環境への取組の位置付け

貴事業所では、環境への取組を、企業活動の中でどの程度重要なものとして位置付けていますか。
現在の考え方に最も近いものを一つ選択してください。（n=292）

結果概要

「社会的責任・地域貢献として必要と考えている」が最も多い。

選択肢	回答数	構成比
経営上の重要課題として位置付けている	45	15.4%
経営課題の一つとして位置付けている	61	20.9%
社会的責任・地域貢献として必要と考えている	155	53.1%
取引先・顧客等から求められる場合に対応するものと考えている	8	2.7%
法令等の基準を満たせば十分と考えている	20	6.8%
事業活動との関係はあまりないと考えている	2	0.7%
その他	1	0.3%
合計	292	100.0%



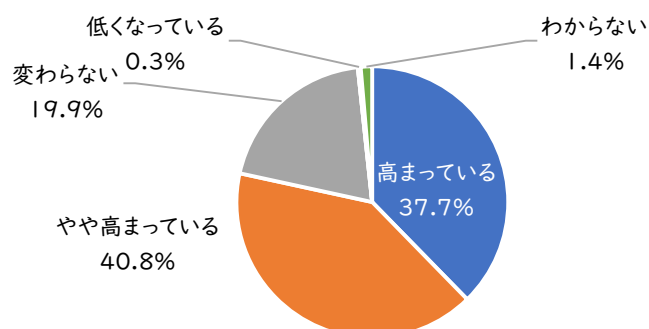
問 5 10 年前と比べた環境への取組の重要性

10 年前 と比べて、貴事業所における環境への取組の重要性はどのように変化していますか。あてはまるものを一つ選択してください。(n=292)

結果概要

「高まっている」「やや高まっている」の合計は 78.4%であり、多くの事業者で環境への取組の重要性が高まっている。

選択肢	回答数	構成比
高まっている	110	37.7%
やや高まっている	119	40.8%
変わらない	58	19.9%
やや低くなっている	0	0.0%
低くなっている	1	0.3%
わからない	4	1.4%
合計	292	100.0%

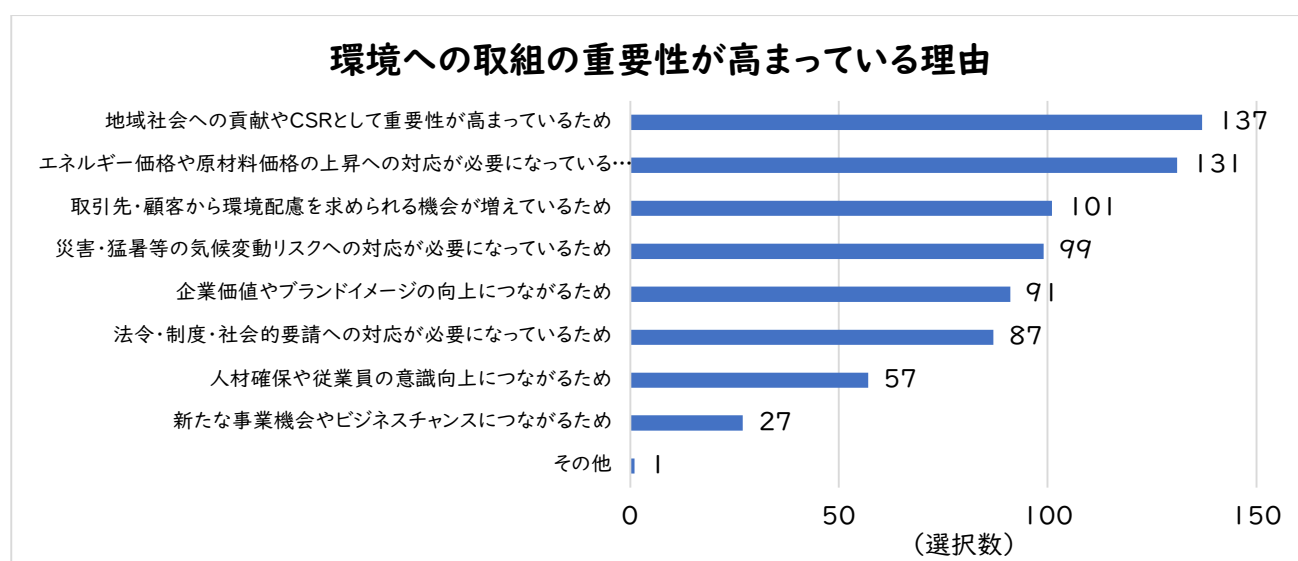


問 6 環境への取組の重要性が高まっている理由

Q5 で「高まっている」「やや高まっている」と回答した方にお聞きます。環境への取組の重要性が高まっている主な理由は何ですか。あてはまるものを全て選択してください。（n=229）

結果概要	「地域社会への貢献や CSR として重要性が高まっているため」が最も多く、次いで「エネルギー価格や原材料価格の上昇への対応が必要になっているため」が多い。社会的責任と経済的要因の双方が背景にある。
------	--

選択肢	延べ回答数	構成比
地域社会への貢献や CSR として重要性が高まっているため	137	18.7%
エネルギー価格や原材料価格の上昇への対応が必要になっているため	131	17.9%
取引先・顧客から環境配慮を求められる機会が増えているため	101	13.8%
災害・猛暑等の気候変動リスクへの対応が必要になっているため	99	13.5%
企業価値やブランドイメージの向上につながるため	91	12.4%
法令・制度・社会的要請への対応が必要になっているため	87	11.9%
人材確保や従業員の意識向上につながるため	57	7.8%
新たな事業機会やビジネスチャンスにつながるため	27	3.7%
その他	1	0.1%
合計	731	100.0%



問 7 環境対策の実施状況

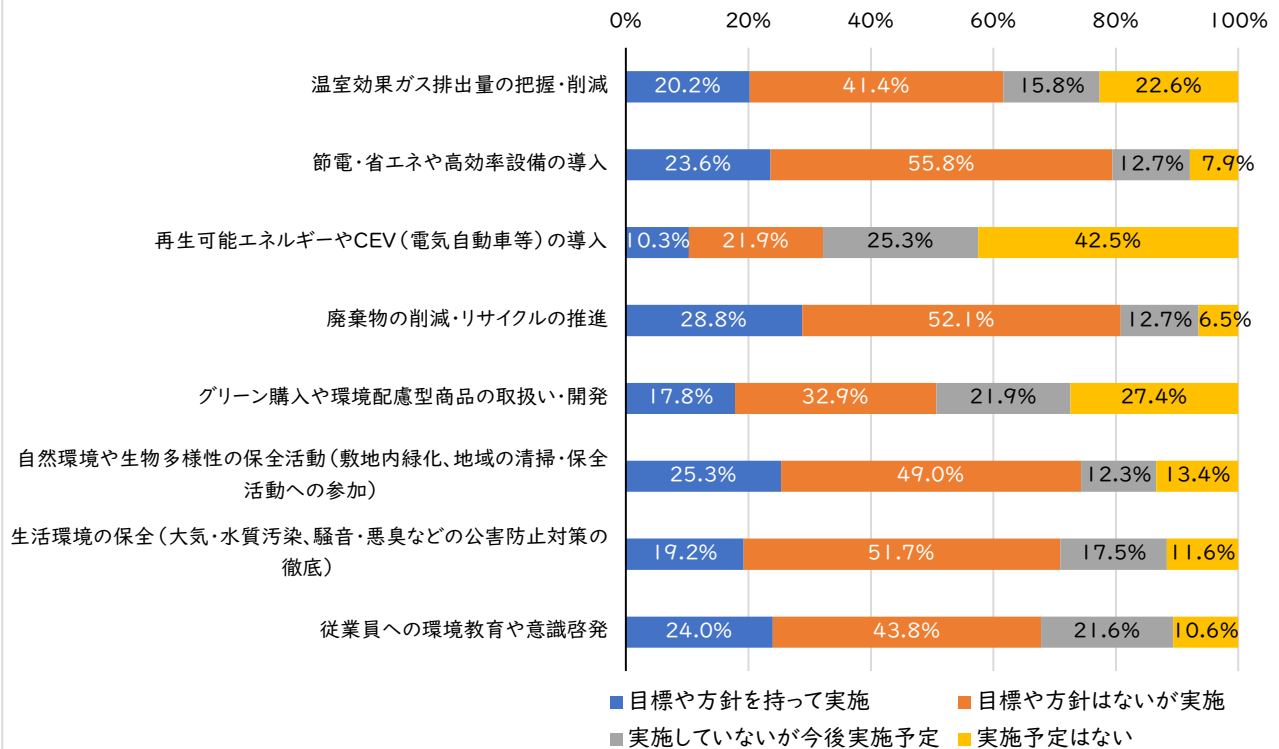
環境対策について、貴事業所ではどの項目にあてはまりますか。各項目について、あてはまるものを一つ選択してください。(n=292)

結果概要

「節電・省エネや高効率設備の導入」や「廃棄物の削減・リサイクルの推進」は実施している事業者が多い。一方、「再生可能エネルギーや CEV(電気自動車等)の導入」は実施予定がない割合も高い。

項目	目標や方針を持って実施	目標や方針はないが実施	実施していないが今後実施予定	実施予定はない	項目合計
温室効果ガス排出量の把握・削減	59	121	46	66	292
節電・省エネや高効率設備の導入	69	163	37	23	
再生可能エネルギーや CEV(電気自動車等)の導入	30	64	74	124	
廃棄物の削減・リサイクルの推進	84	152	37	19	
グリーン購入や環境配慮型商品の取扱い・開発	52	96	64	80	
自然環境や生物多様性の保全活動	74	143	36	39	
生活環境の保全	56	151	51	34	
従業員への環境教育や意識啓発	70	128	63	31	
選択肢合計	494	1,018	408	416	2,336

環境対策の実施状況



問 8 環境対策を実施していない主な要因

Q7 に挙げた環境対策のうち、現在実施していない項目について、実施していない主な要因は何だと思いますか。理由として最もあてはまるものを3つまで選択してください。（n=239）

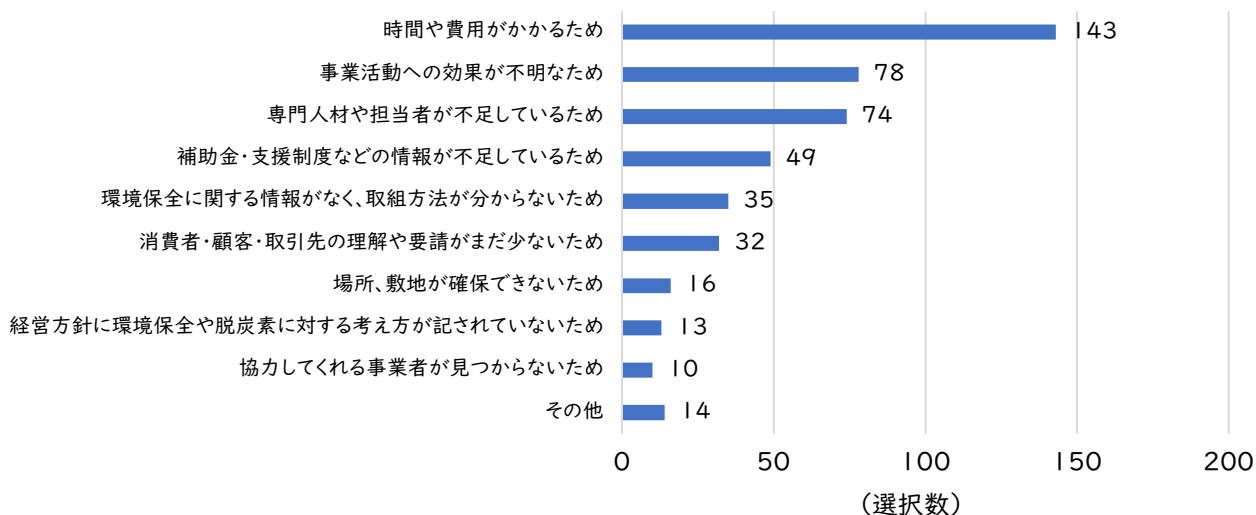
※問 8 は、問 7 において現在実施していない環境対策がある事業者を対象としています。

結果概要

「時間や費用がかかるため」が最も多く、次いで「事業活動への効果が不明なため」「専門人材や担当者が不足しているため」が多い。

選択肢	延べ回答数	構成比
時間や費用がかかるため	143	30.8%
事業活動への効果が不明なため	78	16.8%
専門人材や担当者が不足しているため	74	15.9%
補助金・支援制度などの情報が不足しているため	49	10.6%
環境保全に関する情報がなく、取組方法が分からないため	35	7.5%
消費者・顧客・取引先の理解や要請がまだ少ないため	32	6.9%
場所、敷地が確保できないため	16	3.4%
その他	14	3.0%
経営方針に環境保全や脱炭素に対する考え方が記されていないため	13	2.8%
協力してくれる事業者が見つからないため	10	2.2%
合計	464	100.0%

環境対策を実施していない主な要因



問 9 学校・地域・行政と連携可能な活動

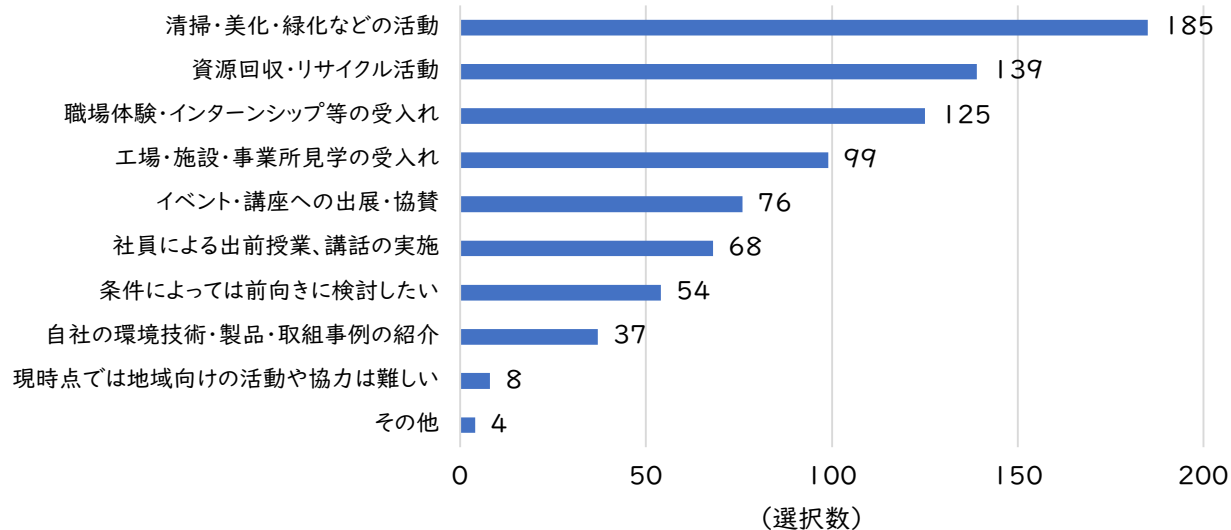
貴事業所が、学校・地域・行政と連携して実施している、または今後協力できる活動は何ですか（複数選択可）
（n=292）

結果概要

「清掃・美化・緑化などの活動」が最も多く、次いで「資源回収・リサイクル活動」「職場体験・インターンシップ等の受入れ」が多い。

選択肢	延べ回答数	構成比
清掃・美化・緑化などの活動	185	23.3%
資源回収・リサイクル活動	139	17.5%
職場体験・インターンシップ等の受入れ	125	15.7%
工場・施設・事業所見学の受入れ	99	12.5%
イベント・講座への出展・協賛	76	9.6%
社員による出前授業、講話の実施	68	8.6%
条件によっては前向きに検討したい	54	6.8%
自社の環境技術・製品・取組事例の紹介	37	4.7%
現時点では地域向けの活動や協力は難しい	8	1.0%
その他	4	0.5%
合計	795	100.0%

学校・地域・行政と連携可能な活動



問 10 今後の県環境施策で重要と思う施策

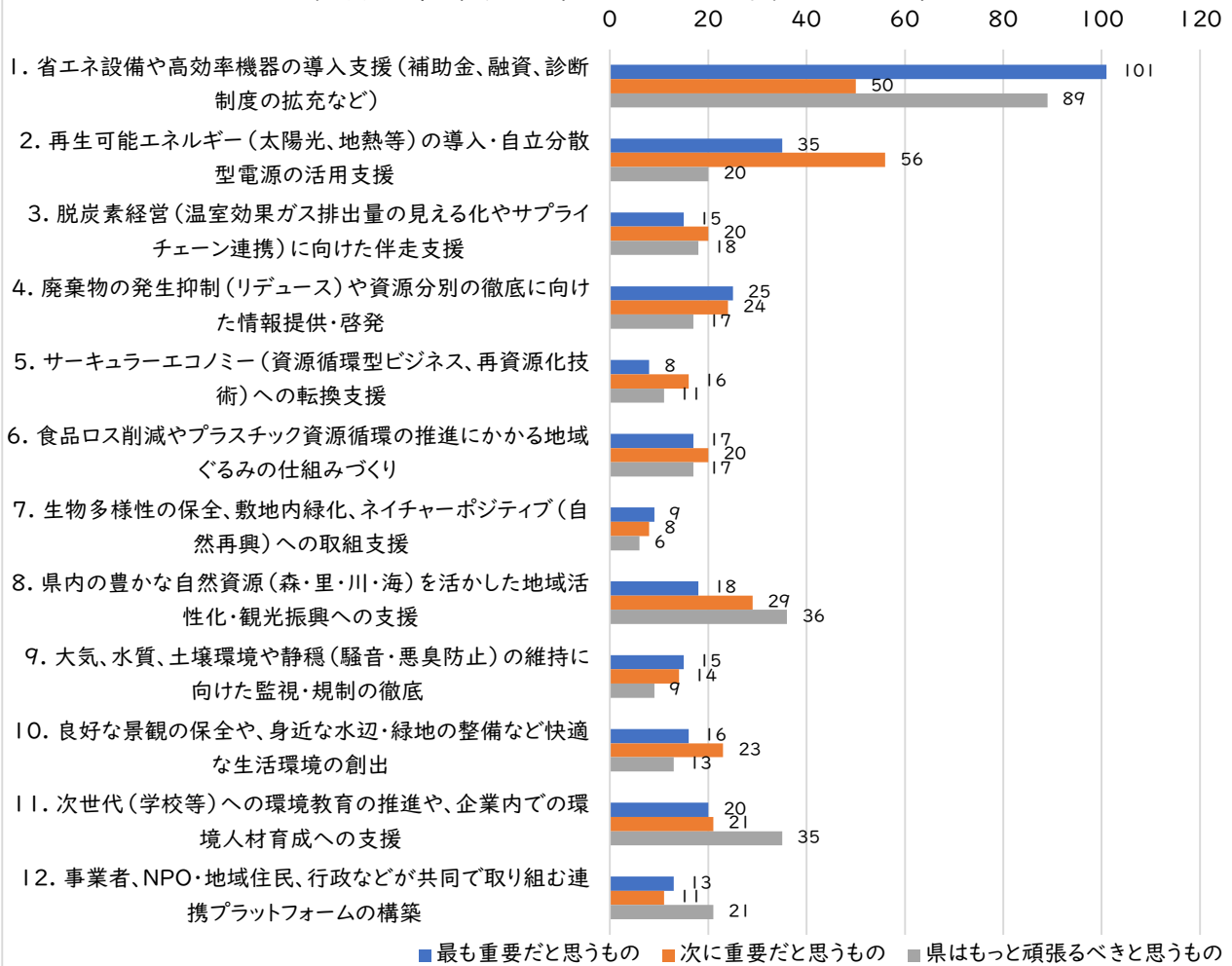
今後の宮城県の環境施策において、貴事業所が重要と思う施策やさらなる推進が必要と考える施策などを以下の12項目から選んでください(n=292)

結果概要

「省エネ設備や高効率機器の導入支援(補助金、融資、診断制度の拡充など)」は、「最も重要」「県はもっと頑張るべき」の双方で最も多い。

選択肢	最も重要	次に重要	県はもっと頑張るべき
省エネ設備や高効率機器の導入支援(補助金、融資、診断制度の拡充など)	101	50	89
再生可能エネルギー(太陽光、地熱等)の導入・自立分散型電源の活用支援	35	56	20
脱炭素経営(温室効果ガス排出量の見える化やサプライチェーン連携)に向けた伴走支援	15	20	18
廃棄物の発生抑制(リデュース)や資源分別の徹底に向けた情報提供・啓発	25	24	17
サーキュラーエコノミー(資源循環型ビジネス、再資源化技術)への転換支援	8	16	11
食品ロス削減やプラスチック資源循環の推進にかかる地域ぐるみの仕組みづくり	17	20	17
生物多様性の保全、敷地内緑化、ネイチャーポジティブ(自然再興)への取組支援	9	8	6
県内の豊かな自然資源(森・里・川・海)を活かした地域活性化・観光振興への支援	18	29	36
大気、水質、土壤環境や静穏(騒音・悪臭防止)の維持に向けた監視・規制の徹底	15	14	9
良好な景観の保全や、身近な水辺・緑地の整備など快適な生活環境の創出	16	23	13
次世代(学校等)への環境教育の推進や、企業内での環境人材育成への支援	20	21	35
事業者、NPO・地域住民、行政などが共同で取り組む連携プラットフォームの構築	13	11	21
合計	292	292	292

今後の県環境施策において重要と思う施策



【参考】施策重要度の得点集計（「最も重要」＝2点、「次に重要」＝1点）

※得点＝「最も重要」×2点＋「次に重要」×1点。平均点は得点を回答者数（n＝292）で割った値。

選択肢	最も重要	次に重要	得点	平均点	順位
省エネ設備や高効率機器の導入支援（補助金、融資、診断制度の拡充など）	101	50	252	0.86	1
再生可能エネルギー（太陽光、地熱等）の導入・自立分散型電源の活用支援	35	56	126	0.43	2
脱炭素経営（温室効果ガス排出量の見える化やサプライチェーン連携）に向けた伴走支援	15	20	50	0.17	8
廃棄物の発生抑制（リデュース）や資源分別の徹底に向けた情報提供・啓発	25	24	74	0.25	3
サーキュラーエコノミー（資源循環型ビジネス、再資源化技術）への転換支援	8	16	32	0.11	11
食品ロス削減やプラスチック資源循環の推進にかかる地域ぐるみの仕組みづくり	17	20	54	0.18	7

生物多様性の保全、敷地内緑化、ネイチャーポジティブ（自然再興）への取組支援	9	8	26	0.09	12
県内の豊かな自然資源（森・里・川・海）を活かした地域活性化・観光振興への支援	18	29	65	0.22	4
大気、水質、土壌環境や静穏（騒音・悪臭防止）の維持に向けた監視・規制の徹底	15	14	44	0.15	9
良好な景観の保全や、身近な水辺・緑地の整備など快適な生活環境の創出	16	23	55	0.19	6
次世代（学校等）への環境教育の推進や、企業内での環境人材育成への支援	20	21	61	0.21	5
事業者、NPO・地域住民、行政などが共同で取り組む連携プラットフォームの構築	13	11	37	0.13	10
合計	292	292	876	—	—

問 11 環境保全・地域貢献に関する取組・アイデア（自由記述）

貴事業所の活動の中で、環境保全や地域貢献として「特に意識して力を入れていること」や、「社内で良いなと思っている取組・他社に紹介したいアイデア」などがあれば、ご自由にお書きください。（n=82）

結果概要	自由記述では、CO ₂ 削減、食品ロス削減、地域清掃、森林整備、再生可能エネルギー、職場体験・見学受入れなどの取組が挙げられている。
------	---

主な回答（抜粋） ※取組の具体例

従業員規模	業種	回答内容（抜粋）
～19 人	卸売業・小売業	不定期ですが、海が近いためビーチクリーンをしています
～19 人	製造業	地中熱ヒートポンプを導入し、二酸化炭素削減、空調エネルギーの削減に取り組んでいます。太陽光発電設備を設置し、再生可能エネルギーの自家消費を進めています。休日など自社で使用しきれない電力は地域に供給することで、地域全体の再エネ利用の拡大に貢献しております
～19 人	農業、林業	農畜連携を生かし、近隣畜産農家から堆肥を土地に還元している。水稻栽培においても乾田直播、中干延長にて、地球温暖化ガス発生の抑制に取り組んでいます
20～49 人	建設業	事業所敷地の一部をグリーンゾーンとして整備し、社員のみならず、地域の方にも気軽に利用できるような空間をつくったこと
300 人以上	製造業	食品製造過程で発生する副産物（残渣）の有効活用や廃棄物削減に取り組んでいます。自社加工場内で発生した残渣を魚粉に加工し、契約農家で肥料として施用したお米を生産、そのお米を自社の飲食店等で利用しています

問 12 2050 年の宮城県の環境に望むこと（自由記述）

2050 年の宮城県の環境に望むことについて、ご自由にお書きください。（n=80）

結果概要	自然環境と生活環境の調和、環境保全と経済活動の両立、災害に強いまちづくり、森林・水辺・緑地の保全、脱炭素化の推進などを望む意見がみられる。
------	---

主な回答（抜粋）

従業員規模	業種	回答内容（抜粋）
～19 人	製造業	脱炭素化がすすみ、災害に強いまちづくりが進み、環境保全と経済の発展が両立した地域であることを望みます
～19 人	卸売業・小売業	クマ問題などに如実に現れておりますが、人間の生活が自然環境に及ぼしている影響などを一人一人がもっと意識できる仕組みづくりを望みます
20～49 人	製造業	産業誘致も大事な経済活動だと思うが、長い時間育まれた希少な森を開拓し自然環境を破壊しながら競争の勝者にこだわるのが将来のためなのでしょうか（一部略）
20～49 人	建設業	宮城県・県内企業・教育機関が連携し、環境問題について意見交換や議論の上で、一人一人の環境知識・意識の向上のための講座を実施する。そして植樹や海のプラスチックごみ拾いなどの環境活動を実施し、それを発信する
300 人以上	製造業	2050 年には、宮城県の豊かな海洋環境が持続的に保全され、水産資源が安定して確保できる状態となっていることを望みます。また、気候変動の影響が最小限に抑えられ、漁業・水産加工業が安定的に発展できる環境が整備されていることを期待します

問 13 その他環境問題に関する意見・要望（自由記述）

その他環境問題に関する、ご意見やご要望などがございましたら、ご自由にお書きください。（n=43）

結果概要	補助金・助成制度の拡充、情報提供、設備投資への支援、リサイクルや廃棄物処理の仕組みづくり、再生可能エネルギー導入時の自然環境への配慮などを求める意見がみられる。
------	--

主な回答（抜粋）

従業員規模	業種	回答内容（抜粋）
～19 人	医療、福祉	様々な環境問題に対する取り組みが行われていますが、ほとんどが結果どのような効果、成果を上げているかわかりません。比較データなどわかりやすい説明が欲しいです（例：ビニール袋有料化によって環境にどれだけの効果が出ているのかなど）
20～49 人	建設業	山間部を切り開いて太陽光発電パネルが設置されている状況について、再生可能エネルギーの利用と自然環境の保全、温室効果ガスの増大などを考えると、そのバランスが重要で、再生可能エネルギー施設を増やせばいいというものではなく、その維持管理、災害対策も含め、簡単な問題ではないと思います
50～299 人	製造業	環境問題への対応の必要性は理解しており、当社としても環境負荷低減に向けた取組を進めたいと考えています。しかしながら、中小企業では環境投資の効果の評価が難しく、投資回収にも時間を要するため、単独での取組には限界があります。設備投資等に充てられる資金には制約があるため、補助金や助成制度などの資金面での支援を望みます（一部略）

※自由記述設問は、回答内容を要約し、主な傾向として整理しています。

※代表例は、原文の趣旨を損なわない範囲で、誤字の修正・表記の統一・記述の一部省略を行っています。また、個人・法人が特定される表現や、掲載に適さない表現を含む部分は省略しています（該当箇所は「（一部略）」と記載）。

※抜粋にあたっては、回答事業者の従業員規模の構成を踏まえて件数を配分したうえで、内容が設問の趣旨を代表するものを選定しています。